



能作が鋳物の製造をはじめたのは大正5(1916)年。創業当時は主に仏具、茶道具、花器を製造していました。転機が訪れたのは昭和40(1965)年頃。豊かさを増す日本人の生活に着目し、モダンなデザインの花器を開発したところ、それがヒットし、業務は拡大の一途をたどります。しかし、ライフスタイルの変化、さらには、景気の低迷や生産拠点の海外移転増加による低価格化など、時代の波にはあがえず伝統的な花器や茶道具・仏具の需要は徐々に減少。能作は苦境に立たされます。

昭和59(1984)年、現・代表取締役社長であ



る能作克治が入社。18年間、一職人として鋳造に明け暮れた克治は、やがてこの磨きあげた技術を活用して自社製品を開発したいと考えるようになります。道が拓けたのは平成13(2001)年の東京原宿で開催された展示会「鈴・林・燐」。素地の美しさを生かした真鍮(しんちゆう)製のベルが注目を集め、セレクトショップでの取り扱いがはじまりました。この形では売れなかったベルに当時の販売員のアドバイスから、短冊をつけて風鈴にしたとたん、毎月1,000個以上が売れる大ヒットに。

以降、克治は、お客様の声にこたえる製品を開発することを決意します。現在、主力となっている錫(すず)100%の製品も、「食器をお求めの方がたくさんいらっしゃる」という販売員の話をきっかけに生まれました。

Experience program

昇龍道ツアー限定飲み比べセット/カフェにて、能作の酒器での飲み比べセットや珍味を提供
※要事前予約



酒器 05

より能い 鋳物を、より能く作る
創業100年を数える鋳物のメッカ

のうさく
株式会社能作
富山県高岡市

